

鳥取大学教育支援・国際交流推進機構
教養教育センター広報アゴラ

No.51
2025.4

Àgora

新入生歓迎号



《目 次》

リベラルアーツとスタートアップ……………	学長 原田 省 ……	1
“型”を身につけ“型破り”な人材にならんことを…	理事（教育担当、IT担当）・副学長 坂口 裕樹 ……	2
ようこそ、鳥大&鳥取コミュニティへ！……………	地域学部副学部長 筒井 一伸 ……	3
新しい自分と出会う……………	医学部教授 深田 美香 ……	4
新入生の皆様へ；大学でなにをする？……………	工学部教授 溝端 知宏 ……	5
地の利、知の蓄積をいかした学びを……………	農学部副学部長 松村 一善 ……	6
新入生の皆さんへ～今しかできないことを全力で～	地域学部地域学科（令和4年度入学）清水 翔太 ……	7
楽しい大学生生活スタート！……………	医学部保健学科（令和3年度入学）松江 京那 ……	8
自分らしい4年間を見つけよう……………	工学部電気情報系学科（令和4年度入学）藤井 隆司 ……	9
一瞬一瞬を大切に……………	農学部生命環境農学科（令和4年度入学）村上 寛武 ……	10
未来の自分をめざして学びを続けよう！……………	高等教育開発センター長 香川 敬生 ……	11
多様性を楽しもう！……………	入学センター准教授 進藤 明彦 ……	12
学びの多様性を体験しよう……………	教養教育センター長 小林 昌博 ……	13
ようこそ鳥取大学へ！……………	データサイエンス教育センター教授 橋本 隆司 ……	15
残りたった4年間の学生生活……………	教員養成センター准教授 石本 雄真 ……	16
これからの4年間・6年間の重み……………	キャリアセンター准教授 長尾 博暢 ……	17
どこでもドアと国際交流……………	国際交流センター教授 チャン・チェオン・ジェン ……	18
（留学生紹介コーナー）鳥取で感じる国際性と文化のつながり		
……………	地域学部地域学科（令和6年度入学）ケルカー・ガルギ ……	19
穏やかな学生生活のために……………	保健管理センター所長 三島香津子 ……	20
新たな環境での挑戦を祝して一心のサポートと共に……………	学生支援センター准教授 井上 菜穂 ……	21



リベラルアーツとスタートアップ

学長 はら だ **原 田** たすく **省**

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。鳥取大学によろこそ。

皆さんが、ここ鳥取の地で学生生活を楽しく有意義に過ごし、一生の間でもかけがえの無い、忘れられない時間となるように精一杯応援したいと思います。

さて、リベラルアーツという言葉を知っていますか？

「実用的な目的から離れた純粋な教養」、あるいは「一般教養」のことです。大学では学部ごとの専門教育を学ぶことが主眼になると思っていますよね。もちろん、各学部で学ぶ専門教育が重要であり、皆さんの将来の生きていくための原動力になることは間違いありません。では、歴史や文学、芸術などの教養教育はどんな意味があるのでしょうか？ 私は、一般教養は人間の幅を広げるためや、豊かな生活を送っていく上で、思っている以上に重要であり欠かせないものではないかと考えています。人は1人では生きていくことはできません。仲間や友人と力を合わせて、仕事や生活を営んでいきます。人と人とを結ぶコミュニケーションや友情や愛情を彩るものとして教養は大事ではないでしょうか。いつでも、どこでも教養は身につけることができますが、若くて思考にも柔軟性があって、時間に余裕がある大学時代がチャンスです。多くの本、絵や書などの芸術作品、劇、映画、音楽に触れて感性を養ってください。これは、鳥取大学が掲げる「人間力」形成につながります。

もう一つ、ぜひ薦めたいことがあります。それは、学生時代にベンチャーやスタートアップなどの起業にチャレンジして欲しいということです。日本でイノベーションが生まれてこないのは、大学の研究者や学生からスタートアップが出てこないことにあると言われていています。学生生活を通して、勉強やクラブ、アルバイトなどいろんな機会に浮かんだどんなアイデアでもいいので、オリジナリティと社会に与えるインパクトを探って起業を試みてください。仲間と一緒に、初めは小規模でいいと思います。失敗してもかまいません。小さな失敗は次につながります。皆さんのチャレンジを応援できるような仕組みを作ります。学生時代にできることには、全てチャレンジして欲しいと思います。鳥取大学は皆さんのチャレンジを応援します。



“型”を身につけ“型破り”な人材にならないことを

理事（教育担当、IT担当）・副学長

さか ぐち ひろ き
坂 口 裕 樹

入学おめでとうございます！ 鳥取大学はみなさんの入学を心より歓迎します。

いきなりですが、みなさんはなんのために勉強すると考えていますか？ 私が考える一つの答えは、将来の選択肢を増やすことだと思います。みなさんはこれから沢山の教科の授業を受けることになります。難しいものもあって、こんなこと勉強してなんの役に立つのかと感じることもあるでしょう。でも必要のない科目などないのです。なぜなら様々な知識や考え方を学べば脳のあらゆる部位を活性化することになり、それらがいずれ連結・融合し知恵を生むことになると思うからです。知識が乏しければよい知恵は浮かびませんので、将来の自分のためにひたすら勉強してください。また、それだけではなく教養を身につけることも重要です。教養は心や生活を豊かにしますし、コミュニケーションをとるための有力な手段にもなりますからね。

さて、惜しまれながら57歳の若さで亡くなられた歌舞伎役者の18代目中村勘三郎さんは、「“型（基礎）”を徹底的に身につけてそのうえで自分の個性を発揮することを“型破り”というが、基礎も会得していないのに勝手なことをやるのは“形無し”と呼ぶんだ。」とおっしゃったと言われています。この方は伝統芸を重んじつつニューヨーク公演を大成功させる等、現代劇を取り入れた多彩な演目に挑み、歌舞伎の世界に革新をもたらした人物として知られています。私はみなさんには、本学で学問の“型”、すなわち“基礎”をしっかり身につけてもらいたいと思います。そして将来は、それをベースにして自分の個性を発揮した“型破り”なことをして、それぞれに進む分野において革新をもたらしていただきたいと願っています。大いに期待していますので精進してください。

「青は藍（藍色のあい）より出でて藍より青し」という有名な故事成語があります。「学問は途中でやめてはいけない。青色は藍という草から生まれるが、その色は元の藍よりもいっそう鮮やかな青色になる。」ということで、教えを受けた人がそれを授けた人の学識やスキルを超えることを意味します。教育の本質はまさにここにあると思います。われわれ教員は自分のミニチュアやコピーを作るのではなく、私たちを超える力量を備えた人材を育てるべく務めています。ですから、みなさんには将来は是非ともそうなっていてもらいたいと願っています。

部活動やサークル活動、アルバイト等を通じて、友達を作ることのみならず様々な世代の人とコミュニケーションをとれるようになることも肝要です。まずは喜びを分かち合える人がいることは重要です。また、順風満帆の人生はなかなかあり得ないので、心身の調子が悪いときには誰かに話を聞いてもらったり助言をしてもらったりすることも必要です。それで活力が湧いてくることがありますからね。

みなさんがここ鳥取大学で実りある大学生活を送られることを心より願っています。



ようこそ、鳥大&鳥取コミュニティへ！

地域学部副学部長 ^つ ^つ ^い ^{かず} ^{のぶ}
筒井 一 伸

ようこそ鳥取大学へ！皆さんの先輩となる在校生も、私たち教職員も皆さんの入学を心待ちにしておりました。鳥大の入学試験に合格するまでは「受験生」として、ある意味、私たちと相対する立場だったかもしれません。しかし今日からは一緒に「鳥大コミュニティ」を創っていくパラレルな立場になりました。まず、私たちはそのことを心から喜びたいと思います。

さて突然ですが、6,200人と66,800人。この数字は何だかわかりますか？前者は鳥大に籍を置く学生数、後者は首都圏にある某私立大学の学生数。

$$6,200 < 66,800$$

と鳥大の学生数が圧倒的に少ないことは一目瞭然です。ではこうしてみましょう。 $\frac{1人}{6,200人}$ と $\frac{1人}{66,800人}$ 。さあこの数字を比べると

$$\frac{1}{6,200} > \frac{1}{66,800}$$

となります。この数字は皆さん一人一人のコミュニティでの役割の大きさを意味しています。人口的な意味で規模が小さいコミュニティほど一人一人のチカラは大きいものなのです。

ところでコミュニティとは何でしょうか？書籍を読んだりすると難しい定義がなされていることもありますが、私はごくごく簡単に「コミュニティとは、コミュニケーションが取れる範囲、協働可能な関係」と説明します。コミュニティcommunityもコミュニケーションcommunicationも、語源は同一でラテン語のcommunis「共同の、共有の(=英語のcommon)」であるそうです。その意味でもコミュニケーションが活発であるかどうか、コミュニティを創っていく際にはとても大切であるといえます。

皆さんはそれぞれの学部に入りましたが、鳥大には学部は4つしかありません。学生数からもわかる通りコンパクトで、コミュニケーションも取りやすい大学です。ですので、学部や研究室に閉じこもるのではなく、是非とも学部を超えた「鳥大コミュニティ」に関わってみてください。

さて皆さんの生活は鳥大内だけにとどまりません。日常生活の上では地域コミュニティがあり、また研究活動などで接することがある「現場」にもそれぞれのコミュニティがあります。人口が全国47都道府県で最も少ない鳥取県では、地域や現場のコミュニティと鳥大コミュニティとの関係性からみる距離はとても近いものなのです。せっかく鳥大の外に広がる地域や現場のコミュニティとの距離が近い鳥取県にある鳥大に入学されたのですから、是非とも鳥大の外にある地域や現場のコミュニティとのコミュニケーションも、楽しく、積極的に進めていってみてください。

皆さんの大学生活をより豊かにする、鳥大コミュニティ、鳥取コミュニティが目の前に準備されています。



新しい自分と出会う

医学部教授 ふか だ み か 深 田 美 香

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を心よりお祝いし、歓迎いたします。

新しいキャンパスで、皆さんは多くの仲間を得ることができました。その中から生涯の友に出会うことができるかもしれません。相手をよりよく知るためには、また、自分自身を知ってもらうためにも、直接の会話以上に重要なものはないと思います。人を知り、自分を知ってもらうことが大学生活を通して成長する鍵になるはずです。そのためにも、大学生活で友人、先生、社会の人たちとの交流の中で自分を表現する能力を高めて頂きたいと思います。

さて、皆さんは大学をどのような場だと考えていますか。様々な考えがあると思いますが、私は、大学とは、新しい自分とその可能性を発見する場であると思っています。新しい自分を発見する契機は出会いであり、鳥取大学は多様な出会いの機会を準備しています。人と出会い、心を揺さぶられる書物と出会い、自分とは異なる価値観と出会い、学問と出会い、新たな出会いによって皆さんは、それまで自分でも気づかなかった自分の関心や興味、能力や適性を発見し、これから進む道に大きな影響をもたらすことになるでしょう。仲間とともに様々なことに挑戦し、多くの経験をして、出会いを大切にしてください。とくに、医学部の学生には、最先端医療から地域に密着した保健・医療・福祉、世界的に認められる研究まで、多様な経験の場を提供できると考えています。自ら求め、挑戦する姿勢を大切に、自分の世界を広げてください。

大学生活を通して、皆さんに育てて頂きたいことがあります。想像力Imagination、思いやりCompassion、そして責任感Responsibilityです。想像力は、直面する問題に対して創造的な解決策を見出すために必要な能力です。想像力はイメージする力であり、経験に意味を、現実を理解を提供する助けとなり、人間が物事や現象を理解するための大切な能力です。思いやりは、他者への深い理解と共感を基にした人と人との強い絆を築くために不可欠です。深い理解と共感とは簡単なことではなく、私たちにできることは、わからない感覚を大切に、その感覚と対峙しながらかわり続けることです。責任感とは、個人としてだけでなく、社会の一員としての自覚を持ち、誠実に行動するために重要な価値観です。皆さんには、自分の学修に責任をもち、学ぶ主体として努力することが求められます。是非とも、大学生活を通して、想像力、思いやり、責任感を育ててください。

最後に、これからの鳥取大学における学生生活の中で、皆さんが多くの新しい出会いを経験され、素晴らしい自分を発見されていくことを心から願っています。そのために、私たち教職員はあなた方のそばで見守り続け、そして、必要な時には支援を惜しみません。鳥取大学のキャンパスで一人ひとりが輝き、成長をともに喜ぶ巣立ちの日を迎えましょう。



新入生の皆様へ；大学でなにをする？

工学部教授 みぞ ばた とも ひろ
溝 端 知 宏

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。長い苦しい受験生活を経て、晴れて鳥取大学生となられた皆様は暖かい春の陽射しを浴び、喜びをかみしめて、これからどのようなことに挑戦しようか、何を学んでどんな人間になろうか、90%程度のわくわくと10%程度のドキドキで心がいっぱいになっておられることと思います。

大学での4年間は結構長いようで短い時間です。今は実感がわからないと思いますが、毎日のルーチンが定まると時間の過ぎ方がどんどん加速し、気がつけばもう卒業、なんてことも結構あります。そこで、説教が大好きな人生で皆様の少し前を歩いている者が助言として、大学生活でこういう所を意識して過ごすといい、自分もこういう所に気をつければ良かった、と思う事を記します。

1. Critical Thinkingはこれからの人生最大の武器：インターネットの創設期を体験した筆者にとって、現在のSNS等の情報メディアの普及により皆様が日々受け取る「情報の量」というのは想像を絶します。困ったことに、その情報は「フルコンタクト」で皆様の目と耳を攻撃してきます。皆様の考え方を特定の方向に向ける意図で仕立てられた情報、嘘により皆様の意識を攪乱する情報もこの情報の洪水の中にあり、正しい情報と同じ威力で届きます。このように情報を浴び続けるのが常態の世では「自分で情報を取捨選択する能力、Critical Thinking」があなたたちと周りの人を守る最大の武器となります。Critical Thinkingを修得する為にはまず「知識を獲得する」、つぎに「好奇心を持って情報を検証する」、最後に「客観的に物事を評価する」ことが必要です。これらは全て本学のカリキュラムを通して学ぶことができます。数多ある情報の中から正しいものを選び、その情報を元に自分の言動を律する能力は一朝一夕で修得できるものではなく、一生鍛え続けるスキルです。卒業後もこの大切なスキルを磨くことができる様、大学では貪欲に知識と思考力を鍛えてください。

2. You don't have to go it alone: 一人で大学受験に挑まれた皆様は大変孤独な時間を体験されたと思います。そして無事受験を乗り越え、大学生となった今、大学生活も同じくらい孤独で一人で過ごす所なのだろうか、と心配していませんか？もしそうなら、そのような心配は無用です。大学は同級生、先輩、後輩、教員、職員と、たくさんの方が皆様のすぐ近くにいて、これらの人一人ひとりとあなたはふれあい、時には教え時には教えられ、大切な仲間となってくれます。大学時代の最も貴重な財産の一つは「培った人とのつながり」である、と多くの方が口をそろえて言います。万が一、大学で孤独を感じるようなことがあれば、すぐに近くの人を頼ってください。「You don't have to go it alone; 一人で頑張らなくてもいいんだよ」、大学とはそういう所です。

皆様がたくさんの力とたくさんの人とのつながりを財産に本学を卒業され、社会に飛び出して活躍される姿を楽しみにしながら、心より応援しております。最後に：健康第一！



地の利、知の蓄積をいかした学びを

農学部副学部長 まつ むら いち ぜん
松 村 一 善

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、みなさんのご入学を心より歓迎いたします。

さて、みなさんが進学した鳥取大学は、実学を重視し理論と実践を相互に触発させ合うことにより問題解決と知的創造を行う「知と実践の融合」を基本理念としてきました。近年では、研究成果を社会実装することで、社会に貢献することを目指しています。社会実装とは、研究開発によって得られた知識・技術・製品・サービスを実社会で活用することを意味しています。例えば、優れた品種や技術を普及させる活動は、みなさんの大学での学びや研究の延長線上に存在しますし、学生時代に社会実装のための活動に関わることになる学生も多くいます。みなさんには、自分の学びが社会とどう繋がっていくのかを意識して学ぶ機会を増やすことをお勧めいたします。

社会実装の現場で、私たちはしばしば、自分達が優れた品種・技術だと考えているものが利用されないという現実と直面します。これは、技術を普及しようとする側が「新しい技術の普及対象となる人たちは、新しい技術に関する経験は何もない」と思いこんでいたり（空容器の誤謬）、普及対象となる人たちが既に持っている技術や経験、価値観と、普及しようとする技術が相容れないことから発生しています（両立性の欠如）。優れた技術が普及しない要因を理解し、研究成果の社会実装を実現するためには、自分の専門領域に関する知識だけでなく、農学全般に関わる知識や利用者・利用地域に対する理解といったジェネラリストとしての素養が必要となります。新入生のみなさんには、専門性を高めて特定の専門領域のスペシャリストになることを目指すとともに、農学に関するジェネラリストになるための学びを継続して欲しいと願っています。

鳥取大学農学部は、全国で3番目の高等農業学校として1920年に創立された鳥取高等農業学校を前身としています。100年を超える歴史の中で、二十世紀梨に代表される果樹園芸の振興、海岸砂丘地の農業的利用を目指した研究から発展した乾燥地研究等、多くの研究成果を社会実装し、社会に貢献してきました。このような伝統に根ざした環境は、農学を学ぶための地の利、知の蓄積という鳥取大学農学部の強みとなっています。これらの強みをいかし、みなさんの大学での学びが充実したものになることを願っています。



新入生の皆さんへ ～今しかできないことを全力で～

地域学部地域学科（令和4年度入学） ^し ^{みず} ^{しょう} ^た
清水翔太

新入生の皆さんへ、まずは、ご入学おめでとうございます！鳥取大学へようこそ！皆さんは今、今後の大学生活への期待と不安を抱えていると思います。そこで、この文章を通して、皆さんの大学生活への期待が少しでも高まり、不安が少しでも和らぐようにと思い、私からいくつかメッセージを送ろうと思います。

まずは、「大学での学び方・授業の受け方」についてです。大学の授業における大きな変化のポイントとして、自分で授業を選び、時間割を登録するようになるということがあります。これを履修登録というのですが、この履修登録が皆さんにとって最初の大きな壁ともいえるかもしれません。入学したてで分からないことだらけな中で、初めての履修登録は非常に難しく、「きちんと取るべき授業は取れているのか？」など、不安になることがあると思います。そこで重要になるのが、同じ学部の友達の存在です。取らなければいけない授業の確認や、一緒に受けたい授業などを話し合い、助け合いながら履修登録をしていけば、何も心配することはありません。次の学年に進むために必要な授業を効率よく履修しながら、自分の興味のある授業や面白そうな授業を是非、仲の良い友達と受けてみてください！

次に、サークル活動についてです。大学には、高校までの倍以上の数の部活動・サークルが存在しています。先輩の私から言えることとして、部活動・サークルには必ず入った方がいいです。違う学部の子や先輩、後輩との繋がりが生まれるだけでなく、運動系の部活動なら定期的に体を動かして気分をリフレッシュ出来ますし、文科系のサークルなら積極的にボランティア活動等に参加することで今後の社会における行動力並びに企画力などを身に付けることが出来、いいことだらけです。所属する部活動・サークルの数に特に制限はないので是非、より多くの新歓に参加してみてください！新歓の期間は、ご飯なども先輩が奢ってくれるのでチャンスです（笑）。

最後に、これから大学生になる皆さんに一番伝えておきたいこととして、「とにかく今しかできないことを全力でやってください」ということを言うておきます。これから先の数年間、「大学生のうちにはしか出来ない」という言葉を嫌というほど聞くと思います。その言葉を胸に刻み、やらなければならないこととやりたいこととの区別を明確に、たくさんの方に全力で取り組んでみてください！皆さんの大学生活が素晴らしいものになることを祈っています！



楽しい大学生活スタート！

医学部保健学科（令和3年度入学）

まつ え あす な
松 江 京 那

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから大学生活をスタートさせるみなさんは、ワクワクする気持ちと同時に、新しい生活を不安に思うなど、さまざまな気持ちを抱いていることでしょう。そこで、そんなみなさんが“楽しく有意義な大学生活”をスタートできるよう、大学生活を送るうえで、ぜひ心に留めておいてほしいことをお伝えしたいと思います。

①今こそ、失敗を恐れず挑戦しよう！

これから始まる大学生活、みなさんはどのようなイメージをもっているでしょうか？高校時代よりも自由な時間が増え、自分の行動次第で多様な経験が得られるというのが、大学生ならではの特権です。大学生活はあっという間に過ぎていきます。貴重な大学時代をどう過ごすかはみなさん次第です。「〇〇コースに入りたい！」「部活は〇〇をしてみたい！」「〇〇系のバイトをしてみたい！」というように、やりたいことや興味のあることには、失敗を恐れずに挑戦することをおすすめします。これは、学業においても同じです。大学では、どの学部においても、実践の機会が増えていきます。そのため、学んだ知識を実践に活かすことが重要となります。教科書や参考書などでの学習に加え、失敗を恐れず興味のある分野の研修やプロジェクトに参加してみるなど、実践的な学習から学びを深めることをおすすめします。何度も実践し、何度も失敗することは、自身の成長のために欠かせません。むしろ、失敗することによって自身の特徴や傾向を掴んでいき、次の実践につなげるからこそ重要となります。失敗を恐れず、興味のあることには挑戦してみましょう。

②多くの人の価値観に触れてみよう！

大学生活では、学部やゼミ、サークルや部活、バイト先など様々なコミュニティに参加し、他者と関わる機会を大切にしましょう。他者と関わりさまざまな価値観に触れると、物事を多角的に見ることができ、新しい発見が生まれます。また、自分の価値観との違いを比較することで、自身の考えや価値観を見直す機会となります。これにより、自分自身の強みや弱みをより明確に把握できます。このように、多くの人と関わりさまざまな価値観に触れることは、自分自身の人間的な成長につながる貴重な機会となります。

最後になりますが、みなさんの大学生活が楽しく、有意義なものとなることを願っています。



自分らしい4年間を見つけよう

工学部電気情報系学科（令和4年度入学）

ふじ い たか し
藤 井 隆 司

新入生の皆さん、このたびはご入学おめでとうございます。私たち在校生一同、心より皆さんを歓迎いたします。

中学校や高校生活を振り返ると、楽しい時間はあっという間に過ぎていくものですね。大学生活も同じです。大学生活の4年間は、人生の中で最も自由で多くのことに挑戦できる貴重な時間ですが、自由だからこそだらけることもできる時間です。どのような大学生活を過ごすかは、自分の選択次第で大きく変わります。

高校生までは、ある程度のルールが用意されていたかもしれませんが、大学では自分の意思で学び、挑戦し、未来を切り開いていくことが求められます。そのため、

「自分は何をしたいのか」「どんな目的を持ってこの4年間を過ごすのか」

を明確にすることが大切です。目標を持つことで、日々の行動に意味が生まれ、より充実した時間を過ごせるようになります。

在校生である私が皆さんにお伝えしたいのは、「まず行動してみること」です。まだ目標が漠然としている方もいるかもしれませんが、何かに挑戦する中で見つかることもあります。サークル活動や留学、アルバイト、ボランティアなど、大学には多くの選択肢がありますので、少しでも興味が湧いたことにはぜひ挑戦してみてください。その一歩が、新しい自分や将来につながるかもしれません。私自身、大学生活でさまざまなことに挑戦し、その中で自分のやりたいことや興味のある分野を見つけました。その経験が、今の私を形作っていると感じています。時には上手くいかないこともありましたが、その一つひとつが成長の糧となり、目標へ向かう大きな力になりました。大学生活は楽しいだけでなく、自分を見つめ直し、新しい自分を発見する大切な時間です。この4年間で有意義なものにするためにも、自分の目標を見つけ、それに向かって一歩一歩進んでください。皆さんが新しい大学生活で素晴らしい日々を過ごせるよう、心より応援しています。

最後に、困ったことがあれば、私たち在校生や先生方に遠慮なく相談してください。一緒に素敵な学生生活を築いていきましょう！



一瞬一瞬を大切に

農学部生命環境農学科（令和4年度入学）

むら しみ ひろ む
村 上 寛 武

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境での大学生活が始まり、期待と不安が交錯している方も多いことと思います。ここでは、これからの大学生活にどう向き合っていくかについて、少しだけお伝えできればと思います。

これから始まる大学生活は、高校の時と比べて大きく自主性が求められます。何もせずに待っているだけでは、なにも得ることはできません。どの授業を受け、何を学びたいかはもちろん、アルバイトやサークル活動なども、これまで以上に自分で選択し、決めていかなければなりません。そのため自由という言葉の大きさに圧倒されることもあるかもしれません。

そんな時には、まず「自分の直観に従う」ことを大切にしてみてください。たとえ刹那的な衝動だったとしても、その新しいことに挑戦する勇気や、普段は気に留めていなかったものに興味を持つことが、意外な発見につながります。大学生活は、学問だけでなく様々な経験を通じてパズルのように自分自身を創っていく時間でもあります。何事もまずは体験してみること。その過程で自分が本当にやりたいこと、興味を持てることが見えてくるはずですよ。

もちろん充実した大学生活を送るためには「自分を大切にすること」を忘れないでください。日々の活動に追われてしまいがちですが、無理せず、自分自身を見失わないことが何よりも大切だと思います。時には休むことも必要です。心身ともに健康を保ち、無理なく楽しく大学生活を送るためのバランスを見つけていきましょう。

そして「友人とのつながり」の重要性を伝えたいと思います。大学は、同じ学問を学ぶ仲間、異なる背景を持った多くの人たちと出会える場所です。良い友人を作ることが、大学生活を豊かにし、さらに自分を成長させてくれるものです。喜びや苦しみを共有できる友達を見つけ、共に支え合いながら学びを深めていってください。

大学生活は、長くもあり、短くもあり、そしてその一瞬一瞬が非常に濃いものです。今後の数年間、がどれほどあっという間に感じられるか、きっとすぐに実感できるはずですよ。もし何かの本気で取り組むことができる瞬間があれば、それを逃さずに楽しんでください。自分の成長を感じる瞬間、仲間と過ごす楽しい時間、悩んだ末に得た成果。それらすべてが、皆さんにとって忘れられない思い出となるでしょう。だからこそ、毎日を大切に、充実した時間を過ごしてください。

これからの大学生活が、皆さんにとって素晴らしい経験となり、糧となることを心から願っています。



未来の自分をめざして学びを続けよう！

高等教育開発センター長 **か がわ たか お**
香 川 敬 生

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。鳥取大学は「知と実践の融合」を基本理念として、教育・研究・社会貢献を展開しています（※1）。知を深め、実践することで課題を発見してさらに知を求める、そんな学びのサイクルをどんどん回していきましょう。

現代の社会は、それぞれの人間がそれぞれの資質を活かして職に就き、さまざまな分野を分担して仕事をすることで成り立っています。みなさんは、入学したそれぞれの教育プログラムで学ぶ専門知識や技術を活かして、これからの社会を支えてゆく人材と期待されています。鳥取大学を卒業するにあたって身につけておくべき能力として、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を設定していますので参考にして下さい（※2）。各教育プログラムではより詳細なDPが設定されており、履修案内・履修の手引（※3）で確認できます。入学早々でまだ実感がないかもしれませんが、正課の授業だけでなくサークル活動・アルバイト・趣味・友人との交流などの課外活動も含めた大学生活を通して、卒業時にはどんな自分になっているのか、社会で活躍する未来の自分を想像してみてください。

大学生活の目標が見えてきたら、「なりたい自分」をめざした学びを設計してみてください。DPを満たすために各教育プログラムのカリキュラムが設定されていますが、必修科目だけでなく、知識の幅を広げる選択科目やオンライン講座（本学ではgaccoを提供）など、どのタイミングでどんな学びをするのかも考えてみてください。また資格の取得、例えば英語のTOEICの最終目標を何点として、何年次までにここまで到達して海外体験、など具体的な道筋を定めるのも良いと思います。

そのような自己調整型の学びをサポートするものとして、私の所属する高等教育開発センターでは「eポートフォリオ」を提供しています（※4）。教育プログラムでの正課の修得目標であるDP能力、および課外活動における自然・運動・教養・奉仕の4項目の体験について年次毎に振り返り、次年度の目標を立てて管理することで、学びを通じた成長を実感することができます。社会に巣立つための就職活動など対外的な自己アピールにも役立ちます。これを是非活用して頂き、未来の自分をめざして、大学での学びを楽しんで下さい。

※1



※2



※3



※4



※1 <https://www.tottori-u.ac.jp/about/spirit/design/>（鳥取大学グランドデザイン）

※2 <https://www.tottori-u.ac.jp/about/spirit/bachelor-policy/>（学士課程教育に関する三つの基本方針）

※3 <https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/class/guidance/>（履修案内・履修の手引）

※4 <https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/class/e-portfolio/>（eポートフォリオ）



多様性を楽しもう！

入学センター准教授

しん どう あき ひこ
進 藤 明 彦

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ようこそ鳥取大学へ！

これから始まる大学生活にワクワクする一方で、大きな環境変化に不安でいっぱいになっている人も少なくないと思います。でも、このような思いは自分だけではなく多くの新入生が感じていることなので、不安を抱えながらも勇気を出して一步を踏み出してください。思いのほか簡単に他の新入生、そして先輩や先生とも繋がりが持てることと思います。

鳥取大学には、47都道府県すべてから学生が集まり、その約8割が鳥取県外の出身です。そのため多様な文化のもと、様々な経験を積み、異なる価値観を持った人と出会うことができます。また、国内だけでなく32の国・地域から168人の留学生（2024年4月時点）が鳥取大学で学んでおり、様々な国の文化に触れる機会も多くあります。そして4つの学部には様々な専門分野があり、最先端の研究が行われており、他学部の人と繋がり自分の考えと融合させることで、自分の知らない新しい世界が見えてきます。

こうした多様性は大学の大きな魅力の一つです。様々な異なる考えを持つ人たちと多く繋がり、交流を通して起こる化学反応を楽しんでください。積極的にサークル活動やボランティア活動、アルバイトに取り組むことで、多くの他学部の友人や先輩との繋がりが生まれるはずです。この繋がりは大学卒業後も続き、あなたの人生を豊かにしていくことと思います。

そして大学生活のもう一つの魅力は、これまでの学校生活とは異なり、自由に使える時間が格段に多くできるということです。この時間は、あなたの魅力を高める貴重な時間です。勉学のみならず、様々な活動に積極的に取り組み、多くの経験を積んでください。活動の場はこれまでの学校生活とは異なり、学内に限定されることはありません。多くの先輩方が学外でボランティア活動等に取り組んでいます。鳥取県は人口最少県であり、少子高齢化、過疎化が進んだ課題満載の県です。大学から学外へ踏み出して地域の社会人や子供たちと協働し課題解決に取り組むことで、また違った化学反応を楽しむことができるはずです。

大学での4年間、6年間は、人生の中で最も充実した魅力に溢れる時期になり得ます。この時間を無駄に過ごすことなく、様々なことにチャレンジしてみてください。今まで自分では見えてなかった新しい世界が広がってくることと思います。大学生活を思い切り楽しんでください。

最後になりますが、みなさんの大学生活が有意義なものとなることを願っています。



学びの多様性を体験しよう

教養教育センター長 こばやし 小林 まさひろ 昌博

新入生の皆さん、大学へのご入学、心からお祝い申し上げます。新しい学びが始まるこの瞬間を迎え、皆さんの心には期待と不安が入り混じっているかもしれません。しかし、大学では多様な価値観に触れ、自分自身の世界を広げることができます。ぜひ、この貴重な学びの機会を存分に活用してください。特に「全学共通科目」は、幅広い知識と多角的な視点を身につけるための科目で、皆さんがこれから深い学びをしていく礎となります。全学共通科目は「入門科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「健康スポーツ科目」という4つの分野に分かれています。たとえば、「教養科目」では基礎的な学問の理解を深める「基幹科目」や、特定のテーマに焦点を当てた「主題科目」を学びます。また、「外国語科目」では英語のほか、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語などが学べます。

私たち教養教育センターは、これら全学共通科目の運営を担当しており、専任教員と他のセンターからの兼務教員で構成されています。センターは大きく「共通教育部門」、「外国語部門」、「健康スポーツ部門」の3つに分かれており、それぞれが皆さんの学びのサポートを行います。これから始まる新しい学生生活において、私たちは皆さんの学びのパートナーでありたいと考えています。さあ、一緒に学びの旅を始めましょう。この後には各部門の代表者から、それぞれの部門の魅力と役割についての詳しいメッセージが続きます。ぜひお楽しみください。

何のための教養か

(共通教育部門：准教授 田鍋良臣)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。いよいよキャンパスライフがはじまりましたね。はじめのころは、慣れないことや戸惑うことがあるかと思います。とくに、授業を選択して単位を修得するという大学ならではの仕組みには、少なからず混乱するかもしれません。履修に関してわからないことや聞きたいことがあれば、積極的に、教員もしくは教務の窓口で確認するようにしてください。

1～2年生のときにみなさんが履修する科目が教養科目です。教養科目には人文・社会・自然科学の基本的な事柄を学ぶ「基幹科目」と、より個別的分野横断的なテーマを扱う「主題科目」、および人生をどのように歩むかを考える「キャリア科目」があります。学部・学科での専門教育を受ける前になぜこれらの科目を学ぶ必要があるかという、一言でいえば、「批判的」な態度を養うためです。どのような研究分野であれ、物事に対する批判的な見方・考え方は欠かせません。また、SNS等の普及による昨今の情報過多な状況において、物事の真偽を見極めることはますます求められるようになってきました。そのためには、専門知識だけでなく、教養科目が提供する学び、つまり、人類がこれまで積み重ねてきた広くて深い知識が大きな助けになってくれるでしょう。アクティブな学びを期待します。

外国語学習は異文化を体験する絶好のチャンス

(外国語部門：教授 崎原麗霞)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

さて、グローバル化が進み、海に囲まれている日本でも、多文化が共生する社会の構築が進みつつあります。異なる文化や背景を持つ人々が共に生き、学びあい、成長していくために、他者に対する理解が極めて重要となり、意思疎通を図るための外国語によるコミュニケーション能力が求められ、大学の教養教育が、その一翼を担っています。

鳥取大学では、教養教育の一環として皆さんがこれまで勉強してきた英語に加え、ドイツ語、スペイン語、フランス語、中国語、韓国語といった初修外国語の授業が必修科目として展開しています。言語は文化の基幹を成しているため、外国語学習は異文化を体験する絶好のチャンスでもあります。教室で「目で見ると、耳で聞く、口で話す、手で書く」ことを通して、外国語学習の魅力と異文化体験をぜひご満喫ください。

中国の公用語（普通話）を日本人は「中国語」と呼びます。「中国語基礎Ⅰ・Ⅱ」及び「中国語応用Ⅰ・Ⅱ」は、1年と2年生を対象に、発音の習得、会話能力、短文の読解、異文化理解力の養成を目標としており、日常コミュニケーション上の有用性を最大限に発揮できる内容になっています。「中国語応用Ⅲ・Ⅳ」は、中国語能力をさらにアップしたい3年生を対象に、中国語検定3級取得を目標に、講義を展開していきます。また、世界を肌で感じるために、海外留学や研修をお勧めします。鳥取大学が実施している海外研修・留学プログラムにぜひご参加ください。皆さんのご健闘を祈ります。

新入生のみなさんへ

(健康スポーツ部門：准教授 瀬戸邦弘)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学受験という人生の大きな関門を突破して晴れて大学生になられた皆さんを心から祝福するとともに、鳥取大学の一員として歓迎いたします。

さて、みなさんが新たに得たステイタス「大学生」とは、これまでとは比べものにならないほど自由度が高く、活動範囲も拡がり、自分の意志さえあれば、社会（世界）の広さとその深さをいくらでも体感できる素晴らしい時・空間となります。しかしながら、みなさんが社会（世界）に飛び立つ前に知っていてほしいこともあります。それは「18才までに知り得た世界は、意外に狭いところだったということ」です。さて、大学でスポーツ実技の授業が行われていること。このこと自体に疑問を持つ学生も多いと聞きますが、実はスポーツを行う空間とは上記の疑問への答えに繋がった場所ともいえるかもしれません。少し説明するならば、スポーツ空間とは、他者と「協同」「協調」「協力」しながら何かを作り上げる空間であり、そこは、これまで作ってきた自分と向かい合い・問いかける、そんな時間にもなります。全国から集まる仲間は、自分の、これまでの「当たり前」とは異なる価値を持ちあなたに語りかけてきます。そんな仲間と一緒に、これまでの枠組み（の限界）とその先にある可能性を知る、スポーツ実技とはそんな空間となっているのです。まずは「今の自分をしっかり知ること・理解すること」、そこが大学生にとってのスタートラインです。ひとつひとつの出会いを大切にみなさんの学生生活が実り多きものになりますように祈っています。



ようこそ鳥取大学へ！

データサイエンス教育センター教授 ^{はし}橋 ^{もと}本 ^{たか}隆 ^し司

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。データサイエンス教育センターからのご挨拶とセンターの紹介をしたいと思います。

皆さんは、入学後すぐに「全学共通科目」と呼ばれる科目（授業）を受講することになります。このうち、「データサイエンス入門」と呼ばれる科目をデータサイエンス教育センターが担当しています。この科目は外部の教材を利用し、オンデマンド形式で行います。言うまでもなく、データサイエンスの素養は文系理系の区別を問わず必要とされ、本科目では、ビッグデータ時代を生きる全ての大学生が身に付けておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスへの入門を解説します。

次に本センターの役割ですが、鳥取大学におけるデータサイエンス教育に関する企画・開発等を行い、論理的思考力・課題解決力を備え、かつ、新しい価値を生み出す人材を育成するための教育プログラム開発等を支援し、本学におけるデータサイエンス教育推進を目指しています。

おしまいに、私から個人的な（おせっかいな）アドバイスとしてお伝えして拙文を終えます。

1. 基本的な生活のリズムを整えること。

早寝早起きをし、食事は毎日三度、栄養のあるものをしっかりと摂って生活のリズムを作ってください。

2. なんでもいいから自分が熱中できるものを見つけること。

寝食を忘れるくらい熱中できるものを見つけてください。大学は「知的レジャーランド」です。図書館に行けば疑問に思ったことは直ちに調べられるし、インターネットへの接続環境も快適でサクサクつながります。それからこれが最も大事な点ですが、大学には各学問分野の専門家が数多くおられます。これを活用しない手はありません。

3. 困った時は一人で悩まず誰かに相談すること。

これは何も大学生活だけに限ったことではありません。人生には楽しいことばかりとは限りません。困ったなあと思った時は一人でその悩みを抱え込まず、周りの誰かに、それが難しい時は、例えば大学の学生支援センターに相談してください。きっと力になってくれるはずです。

それではこれからの鳥取大学での学生生活を満喫してください。



残りたった4年間の学生生活

教員養成センター准教授

いしもと ゆうま
石本雄真

昨今はすっかり紙媒体のものを読む機会は減り、紙媒体の新聞や雑誌は衰退の一途です。デジタル媒体のものでは、LINEやXなどのSNSでも、ニュースでも短文のものが多くなっています。そんな中、紙媒体の、それなりに長文のこのような冊子を読んでいるあなたはとてもレアな存在です（PDFで読んでいる方もそれなりにレアな存在だと思います）。そんなレアなあなたには、「入学おめでとう」などといったありふれたメッセージとは違ったメッセージをお送りします。

入学したみなさん、おめでとうと言われて浮かれている場合ではありません。なんと、学生生活は残りたったの4年間しかありません（もちろん例外は多々あります）。多くの方は4年後にはいわゆる社会人として仕事をする生活をしていることでしょう。これまで小中高と12年間学生生活を送ってきました（こちらにも例外は多々あり）。小中高大計16年のうち、3/4が終わってしまいました。残り1/4です。まだ4年もあるのか、ではありません。わずか4年です。一瞬で終わります。なので、社会に出る前にやっておきたいこと、全部やっておきましょう。勉学？研究？語学？留学？アルバイト？部活？サークル？ボランティア？恋愛？旅行？飲み会？推し活？フェス？アウトドア？筋トレ？読書？ドライブ？起業？インターン？ドラダラする？どれもいいですね。思いついたこと片っ端からやってみてください。もちろん、どれも社会人になってもできます。でも、学生時代ほど、やりたいと思ったときにすぐにできるとは限りません。

大学に入学したということは、4年間（もしくは6年間）のサブスク契約をしたということです。サブスクということは、つまり利用し放題。食べ放題に行ったら、できるだけたくさん食べようと思いますよね？食べ放題より高いお金を払っているわけですから、できるだけ元を取ることを目指してください。基本的に授業履修し放題（限度はありますが）、施設利用し放題、サービス利用し放題です。使わなきゃ損ということです。もし、大学外で英会話スクールに通おうと思ったら、週にたった1時間の授業を受けるだけでも、年間25万円とか、50万円とかかかります。また、みなさん英会話でもパーソナルジムでもなんでも毎週60分というものに通っているとして、「今週はありません、でも月謝は変わりません」とか、「50分で終わってしまった、でも月謝は変わりません」となったらなんだか腹が立ちますよね？10個入りのドーナツを買ったのに9個しか入っていなかったら、抗議しますよね？にもかかわらず、大学の授業では90分の授業が70分で終わったら喜ぶ人が多いです。いや、そこは怒るところです。しっかりとサービスを享受してください。

と、ここまで書いてきましたが、とはいえ、無駄な4年間を過ごすのも、4年後に後悔するのも、やりたいことをたくさんやり残すのも、それらも悪くないですね。それも学生生活の醍醐味。レアなあなた、自分なりの学生生活を楽しんでください！



これからの4年間・6年間の重み

キャリアセンター准教授 なが お ひろ のぶ
長尾博暢

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。私は、「キャリア入門」（農学部生命環境農学科は「キャリア入門Ⅰ」という、鳥大（とりだい）の1年生が前期に履修する科目を担当している教員です。地域学部・医学部・工学部・農学部のいずれの学部でも、みなさんとはその授業科目を通じて必ず接点※がありますので、どうぞよろしくお願いします。

さて、その「キャリア入門」という科目について、簡単に説明します。この科目は、鳥大で充実した学生生活を送ることが今後のキャリア形成にとって最も確かな基盤になるという考えを核にしなが、学生一人ひとりが自らの生き方・働き方について理解と関心を深め、将来を視野に入れた目的意識に根ざした学生生活を実現していくことを目標としています。つまり《充実した学生生活への動機づけ》がこの科目の、そして1年生前期のうちにみなさんに履修してもらうことの、ねらいです。特に鳥取地区の授業では、「キャリア」に関する具体的な知識や情報を授業担当者が提供するだけでなく、毎回の授業で得た気づきや学びを学生生活内の他の領域（学部専門科目、サークル活動、アルバイト、ボランティア活動、インターンシップ、資格取得、等）に波及させるために、自らが取り組む課題や目標を設定し、その後の具体的な進捗しんちよく状況を報告してもらう活動も授業に組み込んでいます。これから始まる4年間（ないしは6年間）に向けて、すでに希望や期待に胸をふくらませている人も、逆に、受験勉強から解放されたもののそこから先のことがまだ何も考えられないという人も、「キャリア入門」を通じて、鳥大での学生生活をより充実したものに手がかりをしっかりとつかんでください。

また、新入生のみなさんには、これからの数年間を「鳥取」で過ごすことの人生における意義を、学生生活を通じて最大限高めてほしいと思います。なかでも、住み慣れた場所を離れて鳥取で暮らし始めた人のほうが多数派でしょうが、その人たちはぜひ、これから数年間にわたり人生にとってかけがえのない時代の舞台となる鳥取を、新たな“地元”としてとらえ、この地に強く・深く・広く、時には鋭く、目を向けてください。そして、鳥取から吸収できること、逆に鳥取に何かできることを考えてほしいと思います。現に、鳥取県以外から入学した鳥大生の先輩が、鳥取を舞台に精力的に活動しているという事例は数知れず、本当に頼もしい限りです。いっぽう県内から進学した人には、慣れ親しんだ“地元”を単にこれまでの延長線上としてとらえず、他地域から来た人の見方を知り、あるいは自ら他地域や世界に身を置くことを通じて、ぜひ鳥取での学生生活に、高校までとは異なるあなたなりの格別の意味をもたせてくれることを期待します。

気づけば紙幅もあとわずか。それでは4月からの「キャリア入門」で会いましょう！

（※ 地域学部の新入生のみ、自らの手で履修登録（金曜4限開講クラスを選択）を行ってください。）



どこでもドアと国際交流

国際交流センター教授 **チャン・チェオン・ジェン**

皆さん、ご入学おめでとうございます。私はマレーシアで生まれ育った人ですが、子供の頃から「ドラえもん」の漫画本を自国語で読んでいました。魅了してやまなかったのが「どこでもドア」というひみつ道具でした。「このドアを開けるだけで、行きたいところへ、どこへでも行くことができる」とテレビ朝日のホームページが説明します。「どこでもドア」は、私にとって希望そのものでありました。そして、皆さんがこれから生活を送る大学は、希望をすれば世界が扉の向こうで待っているような、わくわくする場所であることを知ってもらいたいと思います。

大学には、開けるだけで新しい体験や世界へつながるドアがいくつも潜んでいます。大学生活でまず面するのは、何よりもまず、下宿部屋のドアでしょう。つまり「自立して生活する」ドアです。大学生活をしばらく続けると、聞きなれない言葉がしばしば耳に入ってくることに気がきます。日本語話者でない人たちです。「外国人留学生」へのドアが身の近くにあるということです。

私はキャンパスで留学生に会うとなぜか元気が出ます。約170名の外国人留学生が鳥取大学で学んでいます。日本に近い東アジアの国々はもとより、東南アジア、南アジア、中近東、アフリカ、それに南米と33もの国・地域からの学生が在籍しています。この「どこでもドア」をノックすれば、世界諸国の人、言語、そしてこれらの人の気持ちに触れることができます。

また、留学生との交流のきっかけを作ってくれる「国際交流」へのドアはいくつもあります。学生団体の「G-frenz (ジーフレンズ)」はたとえば昼休みや放課後の6限の時間を使って留学生と話をする「英語カフェ」、ゲームを通じての交流、オンライン交流などの活動をしています。留学生の学習をサポートする「日本語パートナーシップ制度」は、教室に入り留学生の横に座ってサポートする制度です。自習時間では日本人学生・留学生が一对一の形式を取ることもあります。

国際交流センターにもう一つ大きなドアがあります。「海外留学」へのドアです。人生を変えるほど貴重な体験をもたらしてくれますが、短期、長期を問わず海外留学のハードルが高いと言われます。生活力、語学力の面で自信のない学生や、経済的理由で諦めざるを得ないと考える学生は少なくありません。また、一言留学といえども、海外へ行っただけで国際能力が身に付くとは限りません。その意味で、我々国際交流課・国際交流センターの教職員は、海外へ行きたい学生の気持ちを大切に、なるべく留学しやすいよう日々努めています。事前研修や奨学金などを通して留学のハードルを下げながら、短期間でも質の高い交流ができるプログラムをいくつも実施しています。本学の国際交流パンフレットをぜひ開いてみてください。プログラムの種類が豊富で読んでいて希望が湧いてくるはずです。環境が人間を作っていきます。大学という場所は、多様な「環境」を体験できるメリットが大きいです。ぜひキャンパスの中にあるいろいろなドアを積極的に利用してください。ドアが見つからない時は、国際交流課・国際交流センターに立ち寄ってください！



留学生紹介コーナー

鳥取で感じる国際性と文化のつながり

地域学部地域学科（令和6年度入学） **ケルカー・ガルギ**

ご入学おめでとうございます！私はインドから来たケルカー・ガルギと申します。

私は日研究生（日本語・日本文化研修留学生）として鳥取大学で1年間研究するため、日本に留学しています。日研究生とは、日本の大学で1年間、日本語能力及び日本事情、日本文化の理解の向上のための教育を受ける外国人留学生のことです。

私が日本や日本語に興味を持つようになったきっかけは、子供の頃から日本に関するものに囲まれてきたからです。例えば、ドラえもののアニメや「窓ぎわのトットちゃん」という本です。母はよく私と妹に「窓ぎわのトットちゃん」を読んでもらいました。ですので、今私が日本語を学び、日本に来ることになったのは、運命だったと思っています。

大都市では、多くの外国人が住んでいたり、働いていたり、勉強していたりするだろうと考えるのが普通です。そして、それは間違いではありません。では、小さな町の場合はどうでしょう。みなさんは、鳥取に外国人がいるなんてあり得ない、せいぜい観光客くらいだろう、と思っていませんか。私も鳥取に来たばかりの頃はそう思っていました。でも、鳥取に住んで、鳥取大学に通ってわかったのは、鳥取はとても国際的な場所であることです。

鳥取は一見するとそうは見えなくても、実はかなり国際的な場所です。例えば、現在（2024年12月時点）、鳥取大学には170人以上の留学生が在籍しており、外国人スタッフを含めればその数はさらに増えます。また、鳥取市には60カ国以上の人々が、仕事や勉強のために住んでいます。「TIMEフェスティバル」という鳥取市で毎年行われる国際交流イベントは、外国人を中心に始められたもので、このイベントは30年以上続いています！

私は、留学生として過ごしたこの数か月間、鳥取大学で多くの国際交流イベントに参加しました。例えば、G-frenz（国際交流活動を行う学生団体）のイベントでは、参加者と日本語や英語で会話したり、お互いの文化を紹介したりしました。そこでは、新しい友達がたくさんできました。また、鳥取大学附属小学校と附属幼稚園との交流会では、日本の遊びを体験したり、インドのゲームを紹介したりしました。人と話すのが大好きな私にとって、これらの交流はとても素晴らしい経験でした。日本の方々と話し、彼らの経験や物事に対する意見を聞くのはとても楽しいです。

新入生の皆さんにも、ぜひ多くの国際交流イベントに参加してみてください。きっと忘れられない素晴らしい体験になると思います。

皆さんの大学生活が充実したものになるようお祈りしています。

そして、改めて鳥取大学へようこそ！



穏やかな学生生活のために

保健管理センター所長 ^み ^{しま} ^{かつこ}
三 島 香津子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

保健管理センターは一言で言えば『大学の保健室』です。鳥取・米子両地区にあり、医療スタッフ（医師・看護師）及びカウンセラーが勤務し、主に以下の業務を通して皆さんの大学生活をサポートしています。

【心と身体の相談・診察】 様々な心身の悩みや不安・症状の相談に対応しています。小さな悩みや些細な症状でも、そのままにしておくとう解決しない、悪化してしまうことがあります。気になる時は相談しましょう（保健管理センターHP「お問い合わせフォーム」から相談申し込みができます）（内容・症状により医師が診察を行っています）。

【休養、怪我の応急処置等】 しんどい時、体調がすぐれない時には、センター内の休養室（ベッドがあります）で安心して休めます。怪我をした時は、医療スタッフが応急処置を行います。小・中・高校の保健室と同じように利用して下さい。

【健康診断】 毎年4月に、学内で健康診断を無料で実施しています。受健すると、実習や就活で必要となる健康診断証明書を無料で枚数制限なく発行できます（大学以外で受ける健康診断は有料で、証明書発行には1枚数千円程度請求されます）。健康診断は健康状態を確認でき、不調の早期発見に繋がる貴重な機会です。毎年忘れずに受けましょう。

【健康サポート】 保健管理センター内には「自動身長体重計」・「InBody（体組成計）」・「自動血圧計」・「視力測定器」が設置してあり、学生の皆さんは自由に使用できます。5月頃からは「アルコールパッチテスト」を用いたお酒に対する体質のチェック（日本人の約半数はお酒が飲めない・あるいはあまり飲めない体質です）を行っています。20歳までに自分のお酒に対する体質を知っておきましょう。そのほか、健康に関するリーフレットや図書は自由に閲覧でき（殆どのリーフレットは持ち帰りが可能で、図書は貸し出しを行っています）、HPでは医療・健康情報カレンダーなど身近な健康情報を発信しています。皆さんの日々の健康管理に利用してください。

大学では、ワクワクする・楽しいことが沢山あります。でも、辛い・しんどいこともあり、そんな時は心や身体に不調をきたす心配があります。保健管理センターは、学生の皆さんが、心身の不調を「予防」でき、不調になっても「気づく」「コントロール」でき、学生生活になるべく影響が及ばないよう上記に紹介した業務を行っています。保健管理センターに特別なパワーはありませんが、スタッフ職員一同、新入生の皆さんがこれから迎える学生生活を穏やかに過ごすことができるよう、できる限りのサポートを行いたいと考えています。



新たな環境での挑戦を祝して 一心のサポートと共に

学生支援センター准教授

いの うえ な ほ
井 上 菜 穂

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの新たなスタートを心からお祝い申し上げます。大学生活は、新しい環境での挑戦や学びの場です。新しい友人や先生との出会い、さまざまな活動や経験を通じて、自己成長を楽しんでください。困難に直面することもあるでしょう。しかし、それらを乗り越えることで、一回り大きく成長できるはずですよ。もし不安や困難に直面した時には、どうか一人で抱え込まず、私たち学生支援センターを頼ってください。新たな視点や解決策が見つかるかもしれません。

これからの大学生活が皆さんにとって充実したものとなるよう、心よりお祈りしています。この鳥取の地での大学生活を楽しみ、楽しい思い出をたくさん作ってください。



コミュニケーションってなんだ？

(コーディネーター 谷口翔平)

みなさまコミュニケーションは得意ですか？苦手ですか？いかがでしょうか？私自身、日々コミュニケーションについて悩むことばかりです。

「自分の説明が悪かった」「相手が何を言っているか理解できなかった」など日常ではそのような場面が多くあります。私は、みなさまと一緒に考えたいことがあります。コミュニケーションにおいて自分または相手どちらかだけ

が悪いかということがあるのでしょうか？

コミュニケーションの段階は3つに分けることができます。「話す」「考える」「聴く」です。「自分が話して、相手が聴いて、相手なりに考えて話す」または、「相手が話して、自分が聴いて、自分なりに考えて話す」コミュニケーションは、この繰り返しが双方向に行われています。では、「話すこと」と「聴くこと」はどちらが難しいでしょうか？

「話すこと」は話す内容を考え、順番を組み立て、端的な言葉で表現し、余計なことを言わないようにするなど「伝える」工夫が多く必要です。「聴くこと」も相手の言いたいことに集中し、自分の知っている知識や経験に照らし合わせるなど「汲み取る」工夫が必要です。どちらも日常的に行っていることではありますが、一つひとつスキルが必要です。コミュニケーションは自分と相手のお互いで行うものであり、分かりやすく伝え、相手の言いたいことを汲み取ろうとする作業の連続です。人それぞれによって、コミュニケーションスキルの差があって当たり前です。

「もう少しだけ相手に分かりやすいように説明して、もう少しだけ相手の言いたいことを汲み取ろうとする。」ぜひ、人と話すことに臆することなく、新たな出会いを楽しんでくださいね。私もみなさまとお話できることを楽しみにしています。

こんな人はいませんか？

友人や先輩、先生との関係がうまくいっていない、自分に自信が持てない、修学意欲がわかず無気力
イライラする、不安を感じる、怒りっぽい、集中できない、
教室でいつも一人、しばらく授業に出ていない（姿を見ない）
アパートや学外での勧誘、アルバイト、ネット利用のトラブル…

自分のこと、クラスやサークルの友人のことについて、どんな相談も受け付けます。

ひとりで悩まず鳥大生サポート窓口へ…

鳥大生サポート窓口

(いずれも相談の秘密は厳守されます)

1. 学生相談員

各学部に教職員の相談員がいます。所属学部以外の相談員も相談に応じます。

2. なんでも相談、健康相談

鳥取、米子両地区で相談専門窓口があります。

なんでも相談は、学生支援センターで学生生活におけるあらゆる疑問や悩みや困っていることを聞いて、より適切な解決方法のアドバイスや相談先（学内外の関係者）を紹介しています。「身近な人には相談しづらい」「気がかりなことがある」「何となく話をしてみたい」といった場合にも、気軽にご利用ください。

健康相談は、保健管理センターで、身体・精神面の健康上の問題についての悩み・相談に対し医師や臨床心理士によるカウンセリングが受けられます。原則として予約制ですので、事前に予約をお願いします。

鳥取地区

なんでも相談（学生支援センター） TEL 0857-31-5794（直通 平日のみ 8:30-17:15）

鳥取大学保健管理センター TEL 0857-31-5065（直通 平日のみ 8:30-17:00）

米子地区

なんでも相談（学務課学生係） TEL 0859-38-7100（直通 平日のみ 8:30-17:00）

鳥取大学保健管理センター（米子分室） TEL 0859-38-6495（直通 平日のみ 9:00-17:00）

〔鳥取大学学生用緊急連絡先QRコード〕

もしもの時のために登録を！

<https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/support/mobile/>



なんでも相談、健康相談の場所

【鳥取キャンパス】



● **なんでも相談
(学生支援センター)**

共通教育棟A棟2階
平日のみ
8時30分～17時15分
☎0857-31-5794 (直通)
✉ st-support@adm.tottori-u.ac.jp

● **保健管理センター**

平日のみ
8時30分～17時00分
☎0857-31-5065 (直通)
✉ hoekan@ml.adm.tottori-u.ac.jp

【米子キャンパス】



● **なんでも相談
(学務課学生係)**

総合教育棟1階
平日のみ
8時30分～17時00分
☎0859-38-7100 (直通)
✉ st-support@adm.tottori-u.ac.jp

● **保健管理センター
米子分室**

総合アレスコ棟(保健学科棟)3号館1階
平日のみ
9時00分～17時00分
☎0859-38-6495 (直通)
✉ hoekan@ml.adm.tottori-u.ac.jp

àγopá
【アゴラ】

令和7年4月 No.51 発行
鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教養教育センター
〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101番地
TEL 0857-31-5795 (学生部教育支援課)
FAX 0857-31-6762
E-mail st-soumu@ml.adm.tottori-u.ac.jp <https://www.tottori-u.ac.jp/institute/international/page/>

àγopá (agora, アゴラ) とはギリシア語で「人の集まり」「人の集まる場所」「広場」「市場」を意味します。
この教養教育センター広報誌は、全学の学生に共通に関わること (= 全学共通の教養教育) の広場となることを願って、「アゴラ」という名称が採られました。